

	新潟市教育委員会 平成19年3月 定例会会議録			
日 時	平成19年3月16日(金) 午後2時00分			
場 所	市役所 白山浦庁舎5号棟 4階会議室			
出席委員 (5名)	高 山 委員長	欠席委員		
	山 田 委 員			
	小 池 委 員			
	佐 藤 委 員			
	佐 藤 教育長			
会議に出席 した職員 (30名)	職・氏 名		職・氏 名	
	学校教育部長	西 山 耕 一	白根教育事務所長	櫻 井 文 一
	生涯学習部長	佐 藤 信 幸	豊栄教育事務所長	伊 田 千 代 子
	教育政策監	手 島 勇 平	小 須 戸 教育事務所長	田 沢 広 一
	総務課長	斉 藤 仁	横越教育事務所長	神 田 弘
	学務課長	遠 藤 良 二	亀田教育事務所長	石 澤 正 明
	施設課長	関 尚 久	岩室教育事務所長	山 上 光 男
	教職員課長	川 端 弘 実	西川教育事務所長	市 橋 勝
	学校指導課長	伊 藤 充	味方教育事務所長	星 野 昭 生
	保健給食課長	片 田 幹 博	潟東教育事務所長	田 辺 範 男
	生涯学習課	八 木 秀 夫	月潟教育事務所長	瀧 澤 龍 顕
	体育課長	高 井 琢 平	中 之 口 教育事務所長	宮 本 周 英
	総合教育センター 所 長	葦 澤 文 隆	巻教育事務所長	広 木 建
	中央公民館長	三 保 恵 美 子	総務課長補佐	吉 崎 熊 勝
沼垂図書館長	諸 橋 収 一	総務係長	岩 本 正 雄	
新津教育事務所長	丸 山 茂 樹	総務課主事	山 際 幸 太	

開会	時 刻	午後 2時00分
	宣 言 者	委員長
選挙		件 名
		(1) 委員長の選挙について
		(2) 委員長職務代理者の指定について
付議事件 (22件)	議案番号	件 名
	議案第47号	新潟市教育委員会組織規則の全部改正について
	議案第48号	新潟市教育委員会公印規則の一部改正について
	議案第49号	新潟市教育長に対する事務の委任等に関する規則の一部改正について
	議案第50号	新潟市教育委員会職員の職名等に関する規則の一部改正について
	議案第51号	新潟市学齢児童生徒の就学に関する規則の一部改正について
	議案第52号	産業教育手当の支給に関する規則等の廃止について
	議案第53号	新潟市万代高等学校学則等の一部改正について
	議案第54号	新潟市立学校管理運営に関する規則の一部改正について
	議案第55号	新潟市教職員表彰規則の制定について
	議案第56号	新潟市教育相談センター条例の一部を改正する条例の施行期日を定める規則の制定について
	議案第57号	新潟市特別支援教育サポートセンター条例の施行期日を定める規則の制定について
	議案第58号	新潟市特別支援教育サポートセンター条例施行規則の制定について
	議案第59号	新潟市潟東ゆう学館学び棟の管理に関する規則の廃止について
	議案第60号	新潟市青少年育成員に関する規則の廃止について
	議案第61号	新潟市体育施設条例施行規則の一部改正について
	議案第62号	新潟市文化財保護条例施行規則の一部改正について
	議案第63号	教育委員会の事務の補助執行について
議案第64号	教育委員会への補助執行の解除について	

	議案第 6 5 号	新潟市教育ビジョン前期実施計画について
	議案第 6 6 号	新潟市スポーツ振興基本計画前期実施計画について
	議案第 6 7 号	市立高等学校の校長の人事について
	議案第 6 8 号	教育長の専決処理について ・ 県費負担教職員である校長の人事内申について
報告 (6 件)	記 号	件 名
		鳥屋野小学校移転改築用地取得について
		中学生の職業体験実践発表会の開催について
		オンリーワンスクールの一次選考結果について
		中央図書館の愛称について
		地域と学校パートナーシップ事業について
		横越地区公民館移転新築事業について

第1 開会宣言

委員長 午後2時00分開会を宣言する。

第2 会議録署名委員の指名

委員長 山田，小池両委員を指名。

第3 選挙

委員長 委員長の選挙について，説明を求める。

総務課長 委員長の任期が3月31日で終了することから行うもので，教育委員会規則により，原則として在任委員の全員が出席の会議で無記名投票で行い，有効投票の過半数を得た者を当選人とし，任期は4月1日から翌年3月31日までの1年間とする旨を説明。

(投票)

事務局 山田委員3票，高山委員1票，佐藤委員1票の選挙結果を発表，山田委員が委員長に選任された旨，報告する。

委員長 委員長職務代理者の指定について，説明を求める。

総務課長 委員長職務代理者の指定は，教育委員会規則により，在任委員の3分の2以上が出席の会議で，無記名投票で行い，有効投票の最多数を得た者を，委員長職務代理者とし，指定の期間は次の委員長の選任のときまでとなっている旨を説明。

(投票)

事務局 佐藤委員5票の選挙結果を発表，佐藤委員が委員長職務代理者に選任された旨，報告する。

山田委員 (あいさつ)

佐藤委員 (あいさつ)

第4 付議事件

委員長 議案第47号から議案第62号までは、教育委員会規則の制定、改廃になりますので、事務局からまとめて説明していただいた後、議案の順番に質疑を行います。

総務課長，学務課長，教職員課長，学校指導課長，生涯学習課長，体育課長，歴史文化課長 教育委員会規則の制定、改廃の内容について、議案第47号から議案第62号まで議案番号の順に資料に基づき説明。

委員長 所管する所属順に質問、意見を求める。

委員長 48ページに養護学校という表現が残っていますが、これは特別支援学校にしなくてもいいのですか。

教職員課長 現在設置している盲学校、聾学校、養護学校で今後も特定の障がい種別に対応した教育を行う場合には、現在の名称を引き続いて用いることができると国の通知でありますことから、新潟市立養護学校という名称は変えない方向で考えております。

山田委員 48ページの事務職員の職名で事務主幹というのは、県は既にやっているのですか。

教職員課長 平成18年度からスタートしています。

委員長 ほかに質問、意見を求め、全員異議なく可決する。

委員長 議案第63号を上程、説明を求める。

総務課長 教育委員会の事務の補助執行について、資料に基づき説明。
【説明概要】
政令市移行に伴い教育委員会の事務を市長部局へ補助執行させるため市長に協議することについて説明。

委員長	質問，意見を求める。
委員長	学校の施設開放に関する事務で東区，中央区，西区がありませんが，どうしてですか。
生涯学習課長	東区，中央区，西区については今までどおり教育委員会で直接行っていこうとするものです。
委員長	ほかに質問，意見を求め，全員異議なく可決する。
委員長	議案第64号を上程，説明を求める。
総務課長	教育委員会への補助執行の解除について，資料に基づき説明。 【説明概要】 これまで教育委員会に補助執行させていた事務の一部について，政令市移行に伴い市長部局で所管するため，補助執行を解除することについて説明。
委員長	質問，意見を求め，全員異議なく可決する。
委員長	議案第65号を上程，説明を求める。
総務課長	新潟市教育ビジョン前期実施計画について，資料に基づき説明。 【説明概要】 新潟市教育ビジョン前期実施計画の内容について説明。
委員長	質問，意見を求める。
佐藤委員	数値目標が入っているところがありますが，算定基礎はどのようになっているのでしょうか。
山田委員	関連して，全ての項目で数値目標を設定しているわけですが，それで馴染むのか，おかしな数字が出てくることはないのでしょうか。
学校指導課長	基礎・基本を身に付ける教育の推進という項目の施策目標の成果指標に，授業がわかると感じる子どもの割合ということでパーセントで表しています。これは毎年教育センターで学力テスト

トをやったときに実態調査も行っていますので、授業がわかるというようなことでそれぞれ小学校、中学校ごとに出てきます。国語と数学を選びましたのは、基礎、基本ということで設定しました。18年度の現状で6年生国語で90%の子どもが授業がわかると感じています。これについてはこのまま推移してほしいということで19年度以降同じ数字にしています。中学校3年数学は現状63%の子どもしか授業が分からないと出ていますので、21年度までには80%に算定しました。これは、全国平均とか以前に、やはり教師が子どもたちに授業を行ったときに、最低80%をクリアしなければ問題があるということで、期待値であります。このように期待値としているものもあります。また、その下に学力偏差値の向上とありますが、これは毎年新潟市の事業として行っている学力テストの偏差値です。中学校3年の国語と数学をあげていますが、これは特に中学校の学力が当面の課題であるからです。50.0が全国平均でありますので、18年度現状は全国平均をクリアしていますが、これからの教育委員会の事業展開を視野にいれて国語52.0、数学51.5としています。20ページの学習習慣の定着と読書活動の推進で家庭学習を2時間以上する中学3年生の割合が現状で12.4%となっています。ここでは家庭外の塾等の時間を除いています。全国平均はこれより高い数字ですので、全国平均との兼ね合いと学習習慣定着事業ということで今後実態調査をし、家庭の啓発や学校を指導していった場合何%上がるかということ算定して25%としました。このように現状と事業展開の効果を勘案して数値を示しています。ここに書かれている数値は様々な方向がありますが、その大半は今私が言いましたようなかたちで現状値と事業展開していったうえで各年度の上昇率を勘案して決めています。

教職員課長

61ページの女性管理職登用率という成果指標ですが、現状が10.7%です。最終的な目標値については、全国1位の富山県が約40%です。富山県がなぜ高いかというと自宅からどの学校へも通えるという利便性があります。新潟市が政令市になったときに自宅からどの学校へも通えるという条件は同じであるので、それが最終的な目標になるということです。平成20年度に35%としている根拠ですが、富山県は在職の女性比率です。新潟市の指標は在職ではなくて登用の比率です。登用の段階で広げることによって、何年かかけてできるだけその比率

も在職比率も上げていきたいとなっています。ただ、一気に10.7から35というのは非常に大きな数字です。したがってそれに対する意識付けですとか人材発掘という面から、マイスター養成塾や新たに始まる人事評価制度、優秀教職員の表彰制度などを活用して人材の発掘を図りながらこの目標値に近づけたいということで35%、その2年後には40%を目標にしたいと考えています。同じページの学習指導などに支援を要する教職員の減少と教職員の病欠休暇・休職者の減少という成果指標で、当初は数値目標をあげていました。委員さんからこれにはいろいろな条件があったり難しいところがあるので、ただ数値目標を掲げるのではなく、現在の数値を減少させるように努力するという意味で減少という表現がいいのではないかという指摘をいただきましたので、この2つは減少という表現に変えました。

生涯学習課長

50ページの地域教育コーディネーターの配置校数ですが、平成19年度は各区の小学校に1校ずつパイロット校として配置します。20年度は中学校に3校配置し、21年度に小学校8校拡大して各区に2校ずつという目標になっています。ふれあいスクールにつきましては、こども型は現状22校ですが19年度10校の希望がありますので、そうすると既に32校になります。この調子でいきますと21年度には40校程度にできるのではと思われます。公民館出前型は現状3校でパイロット的にやっておりますが、19年度は各区に1校ずつ、その後毎年度各区に1校ずつ増やしていきたいと考えています。

佐藤委員

数値目標を掲げるということは、その数値に完全に縛られることとなります。それは必要なことなのですがプロセスが一番大切ですので、向こう3年間そのプロセスをきちんとして数値目標に到達していればありがたいと思います。

山田委員

先ほど数値目標になじまないものがあるのではないかという話をしたのですが、例えば19ページの成果指標の総合的な学習の時間で学習方法が身に付いた子どもの増加割合で1ポイントアップとなっています。いったいどういうことなのか。むしろ文章で表したほうがすっきりするのではないかという感じがします。これを見ても新潟市が力を入れてがんばるんだということがよく分からないと思います。それから64ページで適正配

置が検討される学校数ですが、現状が4で21年度も4となっています。適正配置審議会を開いて新潟市を見渡して何校かが問題になるのではないのでしょうか。初めからこうなっていて何年間か同じ数字になっているのはおかしいのではないかと感じました。同じことが65ページの教育施策に対する評価の充実の推進本部会議の開催回数が3であれば目標達成とありますが、これが目標になるのかなと、3が2であっても内容がはっきりしていればいいし、逆に3が5であってもいいと、目標に掲げた数値があまりなじまないのがあるのではないのでしょうか。

学校指導課長

19ページの総合的な時間で学習方法が身に付いた子どもの増加割合ですが、この指標をつくる背景は新潟県全体が総合的な学習の時間をやったけれども、その時間が体験だけの時間であったり具体的に力を付けていないという指摘が多くあります。そのためこの指標で何とか総合学習自体を検討していく事業を行ったり、支援事業を継続していくなかで具体的に子どもたちに力が付いているということを指標としてみたいということから設定したものであります。これについては教員へのアンケート方式で指標の達成をしていこうと考えています。

学務課長

64ページの適正配置が検討されている学校数ですが、政令市になりまして全市的な学校適正配置については、これから検討して適正配置審議会に諮っていくことになっております。今現在予定しておりますのが、具体的には65ページの酒屋・割野小と結・市之瀬小が計画にあがっていますので、今現在の計画ということで指標に掲げてあります。

委員長

この4校については適正配置審議会では答えが出ているわけですね。

学務課長

旧新潟市における適正配置審議会と旧新津市のときの計画も含めています。

委員長

21年度まではこれ以上増えないと言えるのですか。

学務課長

検討する中で増えるかもしれませんが、検討するスケジュールからすると慎重に審議していかなければなりませんので難し

いのかと思います。

委員長

目標値として数値化するのがどうなのかというご意見なのですが。

小池委員

確かに数値化するのが難しいものも随分あると思うのですが、この計画書の体裁からいって全部こういう形に整えられているので、多少無理があっても数値目標を書いているという形をとったのかなと解釈しています。確実に推進するという決意をこの数値目標から受け取りました。

総務課企画室長

成果指標についてご説明させていただきます。ただ今小池委員からお話がありましたように、まず市民にわかりやすく新潟市の教育の方向と成果を示すということを第一に考えまして、できる限り可能なものは数値でもって表しています。その成果を具体的に表すものということで、いろいろ各課が検討してまとめてこのようになっております。中には数値が馴染むのかどうかというものもあるのですが、現時点では検討した結果ベストであろうということで、これに向けて具体的に事業を推進していくということです。その中でも数値がどうしても馴染まないものは文章等で表しています。推進本部会議や外部委員会の開催回数については、年3回と示していますが、これは悩んだところで、山田委員のおっしゃったとおり中身が大事なのですが、数値で表すときに現時点ではこれが適当であろうということであげさせてもらっています。

委員長

数値が出るとひとり歩きするということがあります。実現可能な数値と期待値とあるわけですね。できるだけ実現可能な数値を掲げていただきたいと思います。例えば地域教育コーディネーターが21年度までで19人ですが、26年度には全学校に配置したいという希望があるわけですね。そうすると後の3年間で100校くらいに配置されるということにならないと最終目標には達しないと思うのですが、そうするとこれでいいのかという疑問もあるわけです。当然予算も関わってくると思います。小池委員が言われたように数値化するのがわかりやすいのですが、それが足かせになるということもあるということを入らせていただきたいと思います。全体を見まして大変な努力があったと感じています。新しいキャリア教育コーディネーター、

児童サービス図書職員，エキスパート・サポーターなどの人的な役割を担うものやキャリア教育コーディネーター養成講座，キャリアカウンセラー養成講座，総合的な学習の時間検討委員会など今まで無かったものが数えてみましても50を越すんですね。これは大変だという印象を持っています。それをするにはお金がついてこないとできないでしょうし，人も大変だろうと思います。この辺はよほどしっかりしないと計画倒れになる危険性があると思います。実施計画は大変すばらしいものができたと思っていますので，これに向けて予算を獲得するには必死になってやっていただきたいし，人を持ってくるのも一生懸命やっていかないと感じています。たくさんの施策があるので大変だと思いますが，柱だというものは何本かあるはずで。例えば地域教育コーディネーターに象徴されるように学・社・民の融合がひとつの大きな柱とすれば，そこに傾斜しながら予算，人をつぎ込んでいくという体制も考えていただいているのではないかと思います。見えるかたちで教育ビジョンが実現されてきたということを市民の皆さんに感じていただくということが大事なことだと思います。全体を見回した中で今回はここが大事で2番目はここだということで，多少めりはりをつけながら取り組んでがんばっていただければと願っております。

山田委員

新しい言葉がたくさん使われています。実施に向けて努力をしていただきたい人たちに，ぜひわかりやすく説明していただきたいと思います。その言葉のために仕事が増えていないかを踏まえて説明をしていただきたい。新しい言葉を使うと仕事が新しくなったように受けとめるところもあるでしょうし，そこから不満が出てくるところもあるかと思いますが，わかりやすく説明していただいて取り組んでもらうことが大事かと思っています。

委員長

ほかに質問，意見を求め，全員異議なく可決する。

委員長

議案第66号を上程，説明を求める。

体育課長

新潟市スポーツ振興基本計画前期実施計画について，資料に基づき説明。

【説明概要】

新潟市スポーツ振興基本計画前期実施計画の内容について説

明。

委員長

質問，意見を求める。

佐藤委員

世界レベルの選手を育成すると書いてありますが，何かに特化したスポーツに関して世界レベルの選手を育成していくのですか。

体育課長

突然優秀な選手が出てきてオリンピックへという現象もありますが，スポーツ選手の育成についても育成に関する会議を設けてその中でこれから検討していきながら，できるだけ小・中・高の優秀な選手がおりますので，その方をできるだけ新潟にとどまっていたいて，それらの選手の中から最終的にはオリンピックへ向けての育成をしていくという考え方で取り組んでいきたいと思います。

佐藤委員

これから考えるのですか。

体育課長

全体として先ほどご説明した審議会の中にこの計画を推進する会議をおこします。それと競技力そのものをいかに高めていくかというものを専門家にお願いいただいた会議を別におこしまして，そこで小・中・高で取組む形がどういう形が可能なのかという研究も含めて取り組んでいき，その中から世界に向けていく選手を育成して支援をしていきたいと考えております。

委員長

またここにも数値目標が出ていますね。26年度までの数字が出ているわけで，世界選手権に出る人5人，オリンピック3人というような数字が出ていますが，実現可能なのでしょうか。期待値でしょうか。

体育課長

35ページに過去3大会の新潟市出身者の実績をあげていますが，これらの優秀な方が新潟からも出ております。目標としましては数字であげていますが，アジア大会ですと日本代表が約700名，そのうち1%目標で7人，オリンピック代表選手が約300人ですので，そのうち1%ということで3人，ということでそれぞれ目標を定めてできるだけ支援をしながら新潟から世界レベルの選手を育てていきたいと考えております。

委員長

この久保倉さんは新潟の人ではないですね。アルビレックスのスポーツクラブが育てた人ですね。このように民間のスポーツクラブとのタイアップという方法も考えられるのではないのでしょうか。

体育課長

ご指摘のとおりでして、アルビレックス新潟がありますので、子どもたちにも指導していただきたいということで一緒に教室を開いたりということが今まであります。また、中学の女子駅伝では新潟からは今まで無かったのですが、新潟からの女子駅伝のチームを作って一緒にやっていきたいという申出もありますのでぜひ連携しながら進めていければと考えております。

委員長

ここでは2人に1人が週1回以上スポーツをするという目標を掲げているわけですが、問題は冬場なんです。議会でも問題になっていましたが、スケート場、これについてはどういうお考えですか。

体育課長

新潟アイスリンクが閉鎖しまして数年経過しておりますが、ピークの昭和61年で全国に940箇所アイスリンクがありました。今現在約100を切る程度まで落ち込んでいます。新潟市の競技人口は平成15年当時300人いましたが、今はフィギアでは1けた、アイスホッケーチームが5チームで80人程度となっています。今後アイスリンクについては結論が出ておりませんが、引き続き当課で関係課と連携しながら新潟における冬のスポーツのひとつとして検討していきたいと考えております。

委員長

新潟はやはり冬場いかに体を動かすかということが大事だと思います。競技場の屋根の下を例えばランニングコースにするとか、いろいろな工夫がなきにしもあらずだと思います。施設がなければ運動できないという意味ではなくて、施設があるから来てくださいというようなかたちで、ぜひ冬場のスポーツについても、もう少し突っ込んで考えていただきたいと思います。

山田委員

地域コミュニティ連携事業という形でいろいろなところに顔を出しているわけだし、当然市民全体を対象に考えるときの大きな手だてになると思うのですが、現在そういうコミュニティで体育関係あるいは食育関係、そういったことに取り組んでいる

	<p>ようなところ，例えばコミュニティといいますと福祉部会，教育部会等いくつかに分かれて取り組んでいるところが多いように聞いています。体育関係のほうの部会ができているようなところはあるのでしょうか。</p>
体育課長	<p>スポーツの地域振興につきましては，地域でスポーツ振興会の関係をおつくりいただいて，小学校区単位でスポーツの推進者会議をおこして，合併前からそういう取組を行っております。今後政令市になりましたので，各区の組立ての方法としましては小学校区単位でスポーツ振興会を作っていただいてその中で様々な事業の取組をやっていただき，それを基に各区でそれを束ねていただいて，ひとつの会をおこしてそこでさらに区単位でいろいろな催物なり検証なり話し合いを行うということを平成19年から取り組んでいきたいと考えております。</p>
山田委員	<p>現在あるスポーツ振興会，これを核にして地域のコミュニティの中に位置付けていただく，そして活動を考えていくということですね。</p>
委員長	<p>この実施計画では新規事業が30くらい入っているわけで，これを実現していくことも大変だろうと思います。この前，学校指導課から示されて数字を見ましても，児童生徒の体力がここ1年で飛躍的に伸びたと，それは力を入れればそれだけ伸びる，つまりそれだけの潜在能力を持っているということだろうと思いますので，この実施計画が実現できるようにがんばっていただきたいと思います。</p>
委員長	<p>議案第67号，議案第68号について，人事案件のため非公開とし，会議の最後に審議したいと思います。</p>
各委員	<p>全員異議なく了承する。</p>
第4 報 告	
施設課長	<p>鳥屋野小学校移転改築用地取得について，資料に基づき報告。 【報告概要】 鳥屋野小学校移転改築用地の場所，面積，購入額等について報告。</p>

委員長	質問，意見を求めるがなし。
学校指導課長	中学生の職業体験実践発表会の開催について，資料に基づき報告。 【報告概要】 発表会，協力企業への感謝状贈呈式の開催日，場所，概要について報告。
委員長	質問，意見を求める。
委員長	何時からですか。
学校指導課長	午後2時からです。
委員長	一般の方も入れるのですか。
学校指導課長	入れます。
学校指導課長	オンリーワンスクールの一次選考結果について，資料に基づき報告。 【報告概要】 オンリーワンスクール支援事業の第一次選考通過校について報告。
委員長	質問，意見を求める。
委員長	10校に絞るのですか。
学校指導課長	10校程度ということで上限はあります。
委員長	資料では同じような活動をする内容が見受けられますが，発表内容によって審査をするということですね。
学校指導課長	はい，そうです。
委員長	審査員はどんな方ですか。

学校指導課長	審査員は全部で7名で、企業代表、PTA代表、報道、新潟大学、元校長、学校指導課長、担当指導主事という構成になっております。
山田委員	内容の説明を受けて決めていくのだろうと思うのですが、地域のバランスといいますか、これから区を中心に学校が動いていって区が相当のウエイトを占めてくるだろうと思うのですが、そういう意味では区の中に1つくらいオンリーワンスクールがあったほうが動きが良くなっていくのではないかという気がします。
学校指導課長	この選考基準は、教育ビジョンの実現に向けたプロジェクトであるか、自校の教育課題解決のためのプロジェクトであるか、創造的で斬新なプロジェクトであるか、子どもに力を付ける道筋が示されているプロジェクトであるかという観点で選んでいます。1次選考では各委員がこの条件によって選考しておりますので、地域のバランスについては、委員のなかで何らかの観点として持っていますが、全体的な観点として選んでおりませんでした。しかし、お話のように地域的にそれぞれオンリーワンスクールがあり、それを各学校が様々な面で参考にしながらという点では、非常によく分かるところですので、審査委員会には教育委員会からそういう意見があったことはお示ししたいと思っております。
委員長	これは先生が発表するのですか。
学校指導課長	中心となっている教諭が発表します。
沼垂図書館長	中央図書館の愛称について、資料に基づき報告。
	【報告概要】
	愛称の募集、応募状況、愛称の決定等について報告。
委員長	質問、意見を求めるがなし。
沼垂図書館長	地域と学校パートナーシップ事業について、資料に基づき報告。
	【報告概要】
	地域と学校パートナーシップ事業の事業対象校等について報告。

委員長	質問，意見を求める。
委員長	モデル校ではなくてパイロット校としたわけですね。この意味は。
生涯学習課長	推進委員会の場合でモデル校というのはその学校がモデルでその学校をモデルとして同じことをするというイメージになってしまうので，むしろこの事業を開拓してという用語の使い方のほうがいいというご意見をいただきまして，修正したものです。
委員長	パイロット校の不選定の理由の で，既に地域と連携している実績があり，新規事業のパイロット校としては見送りとありますが，そういう学校があったのですか。
生涯学習課長	例えば山の下小学校は，山の下市場の真ん中にありまして，従前から市場と連携したキャリア教育のような取組をやっていまして，市場のほうも一生懸命でして，既にコーディネーターの方もいて，むしろ市場のほうから学校に働きかけて学校と一体になった活動に取り組んでいまして，他の学校から見ますと既に形が出来上がっていますので，あえて選択しませんでした。
佐藤委員	そういった学校も現在かなり存在するということですか。
生涯学習課長	多かれ少なかれ特に小学校では地域との関りを持っていまして，具体的にはセーフティスタッフや学校評議員，総合学習のゲストティーチャーなど，そういった形での関りは持っています。それをより充実していきたいということです。
小池委員	地域教育コーディネーターの役割ですが，配置は週4日程度で上限週16時間と書いてありますが，多分こういう仕事はいつやっているか境界が難しい部分，ある意味ボランティアもしなくてはと思うのですが，その辺の理解はいただいているのですか。コーディネーターになっていただく方への説明はどうなっているのですか。
生涯学習課長	私共のほうではまだコーディネーターに個々に当たっている段階ではありませんので，今のところ学校のほうでコーディネー

ターはこの方が適任だということまでです。コーディネーターの心当たりのある方々は既にいろいろな地域のボランティア活動をやられている方が多いようですので、その線引きは難しい部分があると思いますが、正規の非常勤職員という立場になりますので、そこはしっかりと線引きをしていただく必要があるかと思います。

小池委員

こういうときに難しいのは、ボランティアである程度似た活動ができているところがあるわけですね。部分的に同じような仕事をする有償の人を配置してしまうと、今までボランティアでやっていた所が、こちらもそういう予算を付けてもらわないとやっていただいている人に申し訳ないということで、つぶれてしまう可能性がないこともないと思いますので、その辺を注意深く理解を求めながらやっていただく必要があるかと思います。それから部分的にせよ、そういう報酬が出る活動になるので、責任をきちんと明確に示しておくということと、コーディネーターを将来的に増やすにしても、全学校に1人置くということはすごく予算がかかってしまうかと思っています。ですからコーディネーターの方には当面は学校の中の活動のコーディネートにしても、行く行くは1校に限らず複数の学校の活動をコーディネートしていくようになっていかないと、膨大な予算がかかってしまうことになるので、その辺は考えてからやる必要があるかと思っています。

生涯学習課長

このパイロット校の状況も見ながら、コーディネーターの役割、任期、責任などをつめていく必要があるかと思っています。

教育政策監

コーディネーターを学校側に説明するとき、学校の下請けの仕事はさせないでください、基本的には地域と学校のつなぎ役ですということをお願いしました。将来的には学校が元気、地域が元気ということを目指すものですので、地域が元気になって地域のコミュニティ、地域の方々が自主的に学校に入って自分たちでボランティア、それが自分の生きがいになるくらいに高まるような仕事をしてもらいながら、できたら自分で学校に足を向けていただければ理想だと思います。ただこれは自然には起こらないことだと思いますので、これを起こすには公的にバックアップしながら、いつかは下がるような。そこは難しいところではあるのですが、基本的には無いものねだり

ではなくて、有るものを探すという発想で、地域の自立を高めるように地域が目指さなくてはいけないと思います。

小池委員

そうすると最初からコーディネーターに報酬が払えるのは、向こう何年かくらいで、その先は皆さんにボランティアでやってもらおうということのある程度道筋として示しておいたほうが、いいのではないかと思います。そうでないと、どこも予算がないとできない、予算が終わったらつぶれるというような形になってしまう。ひとつの所に予算が付いていると他の所もそれがないとできないという気持ちになったり、うちのコーディネーター的な役割の人にも払ってくださいという流れになってしまって、全体的にはどこかが有償であると他の所で同じような仕事を無償でしたときに、もめることになると思うのです。

教育政策監

高山委員長と小池委員がおっしゃったことの一番の象徴的なものは、この表の9番目にあります笹口小で、無償に近いかたちでボランティアが入って自分たちが学校運営ということをやっていますので、今回外したということです。小池委員がおっしゃったことをテーマとしながらどうここに入ったらいいかというのが解決の視点とみています。

委員長

全校に配置するとどのくらい予算がかかるのですか。

生涯学習課長

2億数千万くらいになります。

横越教育事務所長

横越地区公民館移転新築事業について、資料に基づき報告。

【報告概要】

横越地区公民館移転新築事業の基本計画案について報告。

委員長

質問、意見を求めるがなし。

第5 次回日程

委員長

次回の日程について説明を求める。

総務課長

3月臨時会は3月27日(火)午後2時から、4月定例会は4月10日(火)午後3時から、5月定例会は5月17日(木)午後2時からでお願いしたい。

全委員 全員異議なく了承する。

第6 閉会宣言

委員長 午後4時30分、閉会を宣言する。

(非公開部分) (議案第67号及び議案第68号の人事案件について、審査し、可決する。)

以上、会議のてん末を承認し、署名する。

署名委員

署名委員